



## 大分循環器病院における心臓血管外科治療 安心して手術を受けていただけるために…(1)

心臓血管外科部長  
みやき やすこ  
宮木 靖子

皆さんの中で大半の方は、心臓手術が必要だと言われると逃げ出したくなると思います。なぜ、心臓カテーテル治療はあまり抵抗なく患者様に受け入れてもらえるのに、心臓手術と聞いた途端に皆様が凍りついたり、あるいは逃げ出したりしてしまうのか…

この要因として、心臓手術というものが実際にどれだけ辛いのか、どんな入院生活になるのかが想像しにくいことが考えられます。

### ■ 心臓手術について

心臓は、生まれてからこの世を去るその瞬間まで、片時も休まず動いている臓器です。そんな働き者の心臓をどのように手術するのか、少しご説明したいと思います。

心臓の手術は、それぞれの方法によって専門家がいるほど多岐にわたりますが大きく分けて

①心臓をまるで止まっているかのように手術する技術、と

②動いている心臓を一時的に完全に停止して再び動かす技術、この2つの技術により格段に進歩したといえます。

この2つの技術についてもう少し詳しく説明すると①の心臓をまるで止まっているかのようにする手術の代表的なものとしては【狭心症に対する冠動脈バイパス手術】があります。狭心症に対するこの手術は心臓の筋肉を栄養する血管(冠動脈)の狭い先に新しい血管を繋いで十分な血液を流してあげる手術です。

2-3mmの冠動脈に2-5mmの動静脈を髪の毛よりも細い糸で吻合します。とても難しそうに聞こえますが、(正直難しいこともあります) 拡大鏡という特殊なメガネと 局所だけを動かさないようにできる道具を使うと十分に縫い合わせることが出来ます。それに加えて樋上名誉院長が推奨する糸3本で心臓を倒立させる技術により、血圧が上下することなく心臓の裏側まで狭い血管を繋ぎ合わせることが可能になりました。

②の動いている心臓を一旦止めて再び動かす手術の代表的なものとしては、【心臓の弁に異常がある場合の弁修復術(弁形成術)】や【弁の取り替え手術(弁置換)】があります。これらの心臓手術では心臓を止める必要がありますが、一旦完全に止めた心臓を再び動かすには一体どのような魔法を使うのかと疑問に感じると思います。

心臓を止める手術には、人工心肺装置という人間の代わりに心臓と肺の機能を代行してくれる機械が必要です。そして、心筋保護装置という機械で、特殊な薬剤を心臓を栄養する血管(冠動脈や冠静脈)から注入することで心臓が停止します。また止まった心臓の細胞が痛まないように、肥料となる酸素を含んだ血液を常に送り続ける必要があります。心臓の作業が終わったらその特殊な薬剤を洗い流してあげます。そうするとまるで魔法のように自然に心臓が動き出します。

この心臓を止める技術は、心臓血管外科手術を始めた1930年代から、いかに長い時間確実に安全に心臓を止めておけるか心臓外科医の頭を悩ませてきましたが、世界中の先人により研究が重ねられ、現在の技術まで進歩してきました。当院での手術は、樋上名誉院長が医師になった当初から研究を重ねて細胞レベルで安全性を確認し、その手術で実証されてきた心筋保護技術を採用しており、心臓が最大9時間止まっても心臓の機能には影響しない確実な方法で、現在も手術をおこなっています。止めた心臓が再始動しなかったり、心臓の動きが手術前より悪くなることは全くありません。

昨今、高齢化が進み病気も複雑になってきました。複数の心臓の病気を一度に治さなければならなかったり再手術があったりと、心臓を長く止めていなければならない場合も増えています。そういった時に最も大事なのは、手術が長くなっても安全に手術を終えられるという技術です。

## ■ 心臓手術の成功率と術後のリハビリは車の両輪

私は、心臓手術を行う上で、どうすれば患者様のこれから(生命予後)に貢献できるのかを医師になってからずっと考え続けてきました。19年前の研修生の頃はせっかく手術をしても元気に動き回れず仕事を辞めなければならない患者様や、手術は成功しているのに自宅に帰って寝たきりになって施設に入ることになった患者様を目の当たりにして、手術をした意味があるのか?と漠然と思っていたのを思い出します。

しかし今は、患者様の未来が今よりも良いものになるように、手術をしていかなければならないのだと思っています。一時的に辛い思いや痛い思いをすることになるかもしれませんが、その価値はあったなと実感していただけるような治療を常に心がけています。

そのために大切なことは、手術の成功率と手術後のリハビリです。

次号では、心臓手術の患者様にとってのリハビリについてのお話しをしたいと思います。

ご期待ください。



拡大鏡(特殊なメガネ)



## 理学療法部紹介



私たち理学療法部には、2年目を迎える期待の若手から17年目を迎える中堅まで7名の理学療法士と、2名のあんまマッサージ・指圧師の計9名が在籍しています。前回の広報誌での紹介は2014年で、随分と長い年月が経ってしまいました。当時から残るスタッフは2名となり、現在はフレッシュな顔ぶれとなっています。

業務内容はもちろんリハビリテーションですが、できることは無限大です。病院を出て周辺を歩く事もありますし、一時期は野菜作りにも挑戦しました。まだまだやってみたいことはたくさんあります。患者さんはこれまで主に心臓疾患と整形外科疾患の方が多かったのですが、最近は消化器

疾患の患者さんも増えており、様々な疾患や障害に対応できるように日々自己研鑽に励んでいます。年度末の3月24日には“記念すべき”、第1回理学療法部症例発表会と題して細々とではありますが各自1年間の集大成を発表することができました。心臓疾患や整形外科疾患、心理的な要因から来る痛みについてなど発表は多岐にわたり、とても有意義なものになりました。

できることは無限大と言いましたが、理学療法士は直接病気を怪我を治療して治すことはできません。しかし、治療の「治」は「治す」の他に「おさめる」とも読むことができます。「治める」には「整えて、あるべき状態にする」、「混乱を鎮める」、「管理する」、「心を落ち着かせる」といった意味が、「療」には「癒す」、「病気を治す」といった意味があるそうです。治めると言う言葉の意味のように、これからも私たちは医師を中心としたチームの一員として、患者さんが、病気を怪我を治してあるいは治めて「心も身体も社会的にも最もその人らしい、本来あるべき状態」へ自らの力で戻れるよう、最善の方法で導いていけるようにいつも患者さんに寄り添います。

これまで理学療法部と関わりのない方もたくさんいらっしゃるかと思います。過去には近隣地域から体操指導の依頼をいただいたこともありますので、院外でお会いすることもあるかもしれません。その際は是非声をかけてください。またスタッフ一同、元気に活発に頑張っていますので、何か気になること、困ったこと、教えて欲しいことがあればお気軽にお問い合わせください。お待ちしております!!

コロナ禍で身体が鈍っている方も多いかと思いますが、ウイルスに負けないように、またこれからの暑さにも負けないように、元気に過ごしましょう!!

理学療法部一同

## 新採用者オリエンテーション

令和3年度新採用者オリエンテーションを4月1日に開催しました。

看護部6名、臨床工学部1名、医療連携室1名、計8名のスタッフが新しい仲間として加わりました。

新型コロナウイルス感染対策として検温、マスク着用、手指消毒、部屋の換気など重々しい雰囲気の中で始まりましたが、新人の元気よい自己紹介から始まり、先輩職員から部署紹介、医療安全、感染対策などの研修が行われました。

一日も早く職場に慣れて、活躍することを期待しています。





## 酢の効果・効能

「酢」は、日本だけでなく、世界中で親しまれている身近な調味料です。原料別にたくさんの種類があり、それぞれ味や風味の違いを楽しむことができますが、更に、いろいろな効果・効能があることがわかっています。

- 防腐・抗菌効果…食べ物をいたみにくくする効果があります。
- 減塩効果…酢を加えることで、薄味でも塩味を感じやすくなります。適度な酸味でコクが出たり、食べやすくなる効果があります。

その他、肉を柔らかくしたり、素材の色を鮮やかにすることもできます。酸味が唾液や胃液の分泌を促すため、食欲増進にもつながります。様々な種類の酢を使い分け、日常の食事に活用してみてください。



## 新任ドクター紹介

- ① 座右の銘 ② 趣味 ③ 今、一番したいこと
- ④ 医師になった理由 ⑤ もし、医師になっていなかったら
- ⑥ 患者さんへ向けて一言



た わら かつのり  
循環器内科 田原 功道

- ① 塵も積もれば山となる
- ② 趣味はゴルフですが、最近は全くできておりません。
- ③ ゆっくり家族旅行をしたいです。
- ④ 幼少期に病弱であったことから、医師を目指すようになりました。
- ⑤ 医師の仕事をしていると、医師ではない自分を想像できなくなりました。
- ⑥ 微力ながら、循環器診療に少しでも貢献できるよう全力で頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



さ とう たかあき  
循環器内科 佐藤 貴昭

- ① 継続は力なり
- ② 野球やバスケットなどのスポーツ観戦
- ③ 旅行！（コロナ禍で行けないので）
- ④ 自らの手で人命救済したり、病気の人を助けることができることに魅力ややりがいを感じたからです。
- ⑤ 薬剤師に興味を持ったかも…。
- ⑥ 少しでもみなさんの力になれるようがんばります。



やまうち しゅういちろう  
循環器内科 山内 秀一郎

- ① 思い立ったが吉日
- ② 筋トレ、ランニング、山登り
- ③ 海外旅行。
- ④ 物心ついた時から医師を目指していました。
- ⑤ 考えたことはありません。
- ⑥ わかりやすい説明、丁寧な診療を心がけています。

